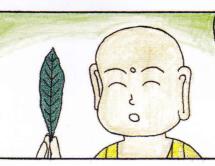
びわ葉の神秘「アミグダリン」

お経の中でも びわの木は「大薬王樹」 びわの葉は「無憂扇」と呼ばれ その薬効を讃えられていますが びわ葉の薬効成分の中でも アミグダリンの働きは とても面白いのです



さてアミグダリンは ガンに効く物質として 知られています

アミグダリンは 青酸、ベンズアルデヒド そして2つの糖質で できています



青酸はいうまでもなく 猛毒ですが このように結合している 限りにおいては 毒性はありません

次に人間の身体を守っている いた。 対しませんで 白血球はマイナスの電位を 持っていて



プラスの電位を持っている 具合の悪い細胞や細菌を 見付けて攻撃します

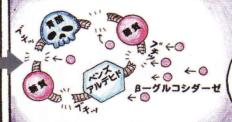


ガン細胞も プラスの電位を 持っていますが

マイナスの電子を帯びたタンパク質の膜に覆われていて

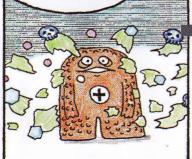
白血球はガン細胞を 攻撃対象として 認識できないのです





アミグダリンが 近づくと β-グルコシダーゼが アミグダリンを 分解します

すると青酸と ベンズアルデヒドが ガン細胞を覆っていた タンパク質を溶かして しまうので



プラス電位を 認識した白血球が ガン細胞を攻撃 するように なるのです

